

市民とともに  
市政を変える。

YAMAGUCHI YUTO

山口  
ゆうと

福岡市議会議員  
[西区]

日本共産党



## 山口ゆうと

Yamaguchi Yuto

福岡市議会議員(1期目)。教育子ども委員会所属。

1989年生まれ。福岡大学附属大濠高等学校卒業。福岡教育大学中退。

社会福祉法人福岡ひかり福祉会「かしはらホーム」勤務をへて現職。

私にとって、将来を考えるきっかけをつくってくれたのは、子ども劇場の活動でした。小さいころから生の舞台、芝居を観て育ち、自分たちで「遊び」をつくる自治異年齢集団キャンプの経験は、私の心と体、ものの見方や考え方を成長させてくれました。

私は、誰かの犠牲の上に繁栄を築いても痛みを感じない、国民の中に分断をもちこみ、違いを受けとめきれない社会は、大変もろい社会だと思います。子ども、青年、高齢者、障害者、すべての人の心に寄り添い、暮らしを応援して、個人の尊厳を尊重し、人間らしく当たり前働き、幸せに生きていける社会をめざします。

# 誰もが幸せに いきていける社会を



山口市議は、  
1期目の32歳の  
新人でありながら、  
議会論戦力、運動との共同で  
市政を動かすという  
抜群の働きは、  
見た目の落ち着きぶりと  
あわせて、「ベテラン新人」  
などと呼ばれるほど  
頼もしい将来有望な  
政治家です。

山口初質問  
の成果

マスコミも報道



## 筑肥線からの地下鉄乗継割引拡大の 請願を採択

JR筑肥線の駅から地下鉄を乗り継いで天神などに出る場合、高額な運賃がかかるため、割引制度が設けられています。東区でも同様の乗継では60円の割引ですが、西区ではその額はわずか20円。不当に安いものです。

山口市議は、当選前から割引を拡大するよう署名運動の先頭に立ち、2019年の初質問で、割引の拡大を求め、議会では党派を超えた要求で請願が採択。JRに要請を行いました。割引の拡大へ引き続き奮闘します。



# 地域の願いを掲げて 市政を動かす

「議会論戦力、運動との共同で市政を動かす」という山口市議の活動スタイルは、地域の切実な願いの実現でまず発揮されました。



## 折り返し運転申し出の見合わせを追及

初質問の中で、トラブルによる地下鉄・JR筑肥線運転見合わせで、特に姪浜以西の市民に帰宅困難者が出た問題を取り上げました。JR九州の姪浜～筑前前原間の折り返し運転の申し出に市側が見合わせを要請していたことを明らかにし、交通局は「今後はJRと協議する」と答弁。新聞も報道しました。

## 違法な盛土問題を追及

西区今宿地域で、2020年の市の許可以前の2017年ごろからソーラーパネル設置のために、土砂災害特別警戒区域での盛土造成が行われていました。すぐ近くに住宅やマンションなどがあり、大雨の際の土砂災害に及ぶ危険性を追及しました。

山口市議の「条例違反では」との質問に、ごまかそうとした農林水産局長は、再質問の答弁で「条例違反」と「必要な災害防止措置」が講じられていないことを認めました。

山口市議は、許可の取り消し、災害防止措置命令、さらに、罰則の強化や住民説明会の義務づけ、土砂災害特別警戒区域等における埋立て等の禁止を盛り込んだ条例改正を求めました。市長は、「国や県の動向を踏まえて対応する」と述べるだけでした。



# 教育の問題でも 市政を動かす

山口議員の追及で、市教委も自民党も校則問題での人権感覚がないことが浮き彫りになりました。しかし、世論に押され改善に動き出しました。

## ブラック校則追及がネットで大反響！ 大きく改善へ

山口市議は福岡市内の中学校での人権侵害の校則や、指導の調査結果と改善を求めた県弁護士会の意見書について、議会で取り上げ、自らも子どもたちや保護者から聞き取り。2021年3月議会で、スカートの長さや髪型規制の「合理的根拠」について質問。教育長はしどろもどろで答弁不能になりながら、下着検査などの人権侵害の事実も否定。力づくで眉毛や髪の毛の色を直すことを「教育的指導の範囲内」との態度に驚きの声が寄せられました。

### ▶市教委・自民党の人権感覚

山口市議の質疑はインターネットで注目され「理詰めで発言できる議員だ」「このジャンルでは共産党が活躍してる」などの評価の声が寄せられました。また、「何で教育長が『変えましょう』と言わず、頑強に守ろうとするのか」と市教委への批判が殺到しました。議場では、自民党議員席から「発言通告していないだろ!」というヤジが浴びせられ、教育長には「よく言った!」と「激励」。市教委と自民党が何らの問題意識を持たないことを示しました。

### ▶見直し改善へ

しかし、質問から3カ月後、市教育委員会は有識者から意見を聞く協議会を立ち上げ、生徒主体の「校則検討委員会」を各学校に設置し、見直しが進みました。



## 全学年での35人以下学級 本格実施が実現



高島市政下で、小・中学校の35人以下学級は1学年も広がっていませんでした。

日本共産党市議団は10年間、代表質問・市長への要望で求め続けました。山口市議も、2020年の教育こ

ども委員会での請願審査で筆頭紹介議員となり、「教員増による恒久的な35人以下学級」をと採択を訴えました。

### ▶市政を動かす

コロナの感染拡大をきっかけに、ようやく2022年度から「本格実施」に。市政を動かしてきたのは、まさに市民の運動と山口市議と日本共産党など(市民クラブの議員も)の議会論戦でした。少人数で、先生の目がゆき届き勉強が面白くなる、学校が楽しくなるという効果が全国の調査などでわかっています。

# 学生や若者の代表として その声を市議会で

32歳の山口ゆうと市議は、学生や若い人たちの代表として、学生支援や若者の働き方などその声を市議会に届けてきました。

## コロナ禍で困窮する学生の実態を聞き取り 「学生支援特別給付金」が実現

日本共産党市議団は、学生生活への支援を求めました。この結果、「福岡市学生支援特別給付金」が実現しました。

山口市議の質問では、この「給付金」の利用が、想定(1万6,500人)の半分以下であることが明らかに。「両親と生計が別で、仕送りを受けず学費も奨学金も自身で工面しているが、両親の収入の課税額で受けられなかった」などの声を紹介し、学生の実態をつかまない制度設計の失敗を指摘し、対象と額を拡大し支給し直すことを求めました。

### ▶誰もが返済の心配ない奨学金を

また、2019年6月の初質問では、貸与型奨学金で「返済ができなくなり、自己破産した」「毎月2万円返して25年。自分の子どもの学費も払えない」など、奨学金返済の重い負担の実態を示し、「制度の拡充を国に求めるべき」と迫り、同時に約1億円で、独自に奨学金を創設した札幌市の例を示し、市独自の給付型奨学金を要求しました。

り、同時に約1億円で、独自に奨学金を創設した札幌市の例を示し、市独自の給付型奨学金を要求しました。

## 初質問で「ブラック企業根絶条例」の制定求める

日本共産党の市民アンケートで若い人への支援策を尋ねたところ、トップの回答は「ひどい働かされ方をなくす支援・相談」で67%にもものぼりました。山口市議は、ブラック企業の根絶条例の制定を公約に掲げて初当選。初質問で取り上げました。日本共産党市議団は啓発が不十分だとして、テレビCMやネット動画の活用などを提案しました。



を公約に掲げて初当選。初質問で取り上げました。日本共産党市議団は啓発が不十分だとして、テレビCMやネット動画の活用などを提案しました。

### ▶身近な労働相談窓口を

さらに、「理由もなくうさぎ飛びを強要」「よく結婚できたね。妊娠してやめるとか許さない」など、パワハラやマタハラの実態も告発。若者から「どこに相談に行けばいいかわからない」という声を紹介し、より身近な場所に市独自の労働相談に特化した窓口の設置を求めました。



# 徹底した 追及力

山口ゆうと市議は、1期目と思えぬ追及力で、これ以外にも市長や行政の間違った政治を厳しくただしています。

## 議場からどよめき

### 企業主導型保育のずさんさを暴露



福岡市の企業主導型保育施設をめぐる補助金詐取事件で、施設存続の危機に追い込まれ、共産党に職員・保護者から悲痛な訴えがありました。山口市議は田村智子参院議員とともに、聞き取りを行い市をたどりました。

施設企業が、絵本・おもちゃなどをまともに揃えず、保育士たちがかき集めたことや、給料も数ヶ月間支払われていない事実などが質疑で明らかになりました。

#### ▶保育園の厨房にワイングラス？

特に調理室については、山口市議が、給食は一度も作られず、設置企業が運営するレストランの厨房として使われ、ワイングラスなどが置いてある実態を紹介すると、議場からどよめきが起こりました。山口市議は、市内の他の同型施設への立入調査の強化を要求し、問題の多い企業主導型保育ではなく認可保育園を増設するよう迫りました。

## 自衛隊への名簿提供問題を追及

市の個人情報保護審議会が「提供を望まない人は除外する」との条件を示しているにもかかわらず、市民の反対を押し切って福岡市は自衛隊に3万人近い若者の名簿の提供を強行しています。

山口市議は、「本人が容易に知りえる状態」であることを定めた個人情報保護法の周知が不十分だと指摘。

共産党市議団は、議案提案権を活用して「自分の知らないところで個人情報を渡さないようにする」個人情報保護条例の改正案を提案。山口議員が提案理由説明を行いました。

#### ▶市長は無反省。目的外使用は…

高島市長に対し、市民に謝罪した上で名簿を引き上げ、提供を撤回するよう求めましたが、市長は謝罪を拒否し無反省な答弁をしました。

また、使用目的後の名簿廃棄も、書面確認だけで保証がないことも判明しました。





## マスコミ注目 桜を見る会に参加した 高島市長を追及

2019年12月11日の議会で山口市議は、高島市長の桜を見る会参加問題を追及しました。

高島市長が5年連続で参加した「桜を見る会」について、安倍晋三後援会主催の「前夜祭」に、公職選挙法違反や政治資金規正法違反の疑いがあること、反社会的勢力が招待されていたこと、税金が使われ、参加者への便宜の疑惑がある同会の私物化についてたどしました。

高島市長は「国において適切に対応するものと認識している」などと、まともにも回答できず「前夜祭」は会費5,000円を自費で払えば出席できることを明らかにし「5,000円は適切」と開き直りました。

山口市議の質問は毎日新聞・読売新聞で報道され注目されました。



## 生活相談

毎月第3水曜日 19時～  
新室見診療所デイケア室

偶数月第1木曜日 19時～  
壱岐団地58棟集会所

偶数月第4木曜日 19時～  
周船寺公民館

奇数月第4火曜日 14時～  
城の原集会所

奇数月第4水曜日 19時～  
横浜自治会館

